

◎指示があるまで開かないこと。

(令和8年2月8日 13時35分～15時10分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は50問で解答時間は正味1時間35分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には a から e までの5つの選択肢があるので、そのうち質問に適した
選択肢を1つ選び答案用紙に記入すること。

(例) 101 医師免許を付与するのはどれか。

- a 保健所長
- b 厚生労働大臣
- c 地方厚生局長
- d 都道府県知事
- e 内閣総理大臣

(例)の正解は「b」であるから答案用紙の**(b)**をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)
			↓		
101	(a)	●	(c)	(d)	(e)

答案用紙②の場合、

101	101
(a)	(a)
(b)	●
(c)	→ (c)
(d)	(d)
(e)	(e)

1 アナフィラキシーにおけるアドレナリンの注射部位はどれか。

- a 筋肉内
- b 心腔内
- c 動脈内
- d 皮下
- e 皮内

2 皮膚筋炎の患者にみられるのはどれか。

- a 口腔潰瘍
- b 指尖潰瘍
- c 上眼瞼の紫紅色の浮腫
- d 蝶形紅斑
- e 網状皮斑

3 過敏性腸症候群の診断に必須なのはどれか。

- a 下痢
- b 腹痛
- c 便秘
- d 食欲不振
- e 腹部膨満

4 循環は保たれているが、自発呼吸がみられない患者に緊急頭部 CT を行う場合の呼吸管理で適切なのはどれか。

- a 酸素マスク
- b 経口エアウェイ挿入
- c 気管挿管による人工呼吸
- d 非侵襲的陽圧換気(NPPV)
- e 緊急気管切開による人工呼吸

5 体表からの触診で腫大を確認できないリンパ節はどれか。

- a 腋窩リンパ節
- b 顎下リンパ節
- c 頸部リンパ節
- d 肺門リンパ節
- e 鎖骨上リンパ節

6 血液培養検体の採取方法で正しいのはどれか。

- a 皮膚の消毒薬が乾かないうちに採血を行う。
- b 採血時には滅菌手袋を使用する。
- c 同部位から複数回採取する。
- d 鼠径部からの採取が推奨される。
- e 好気性ボトル、嫌気性ボトルの順に血液を注入する。

- 7 胸水検査のための胸腔穿刺で正しい手技はどれか。
- a 第9肋間を穿刺する。
 - b 手技中に咳が生じても急いで手技を進める。
 - c 肋骨下縁に沿って穿刺針を胸腔内に進める。
 - d 局所麻酔をしながら胸腔までの距離を確認する。
 - e 胸水が吸引されたら穿刺針をさらに5 cm 進める。
- 8 冠攣縮性狭心症の胸部症状に特徴的なのはどれか。
- a 頭痛を伴う。
 - b 飲水で改善する。
 - c 吸気で増悪する。
 - d 早朝起床前に発症する。
 - e 持続時間は5秒以内である。
- 9 原発性肺癌で正しいのはどれか。
- a 大細胞癌の頻度が最も高い。
 - b 小細胞癌は化学療法の感受性が高い。
 - c 扁平上皮癌は喫煙者には発生しにくい。
 - d 腺癌は喀痰細胞診で早期発見されやすい。
 - e 腺癌は治療標的となる遺伝子異常に乏しい。

10 下記は、歴史上のある医師に関する記載である。

「1849年にカナダで生まれ、医師としての科学的視点と患者に寄り添う姿勢の重要性を説き、今日の臨床医学、医学教育の発展に多大な貢献をした内科医である。感染性心内膜炎において指趾末端にみられる有痛性皮下出血について記載したことも知られる。また、“To study the phenomena of disease without books is to sail an uncharted sea, while to study books without patients is not to go to sea at all.”(患者を診ずに本だけで勉強するのは、まったく航海に出ないに等しいが、反面、本を読まずに疾病の現象を学ぶのは、海図を持たずに航海するに等しい)などの名言を残した。」

この説明に該当する人物はどれか。

- a Albert Schweitzer〈アルベルト・シュバイツァー〉
 - b Edward Jenner〈エドワード・ジェンナー〉
 - c Louis Pasteur〈ルイ・パスツール〉
 - d Robert Koch〈ロベルト・コッホ〉
 - e William Osler〈ウィリアム・オスラー〉
- 11 「普通の明るさでもまぶしく感じ、目を開けているのがつらい」と訴える患者で、障害されている可能性の高い脳神経はどれか。
- a 視神経
 - b 動眼神経
 - c 滑車神経
 - d 外転神経
 - e 顔面神経

12 手段的日常生活動作(IADL)の評価項目はどれか。

- a 更衣
- b 整容
- c 入浴
- d 歩行
- e 服薬管理

13 心不全の増悪予防のための生活習慣改善指導を遵守できておらず、入退院を繰り返している患者本人から、「心臓が悪いとは知らなかった」との発言があった。

適切な医師の返答はどれか。

- a 「これまでに何度も説明してきたはずです」
- b 「左室駆出率が全周性に高度低下しています」
- c 「ご家族に説明しますから、連れてきてください」
- d 「一生懸命に治療しているのですが、病気の進行は仕方ありません。心臓が悪いのです」
- e 「ご自分の病状についてどのように理解されているのか、わかる範囲で教えてください」

14 抗核抗体は全身性エリテマトーデス(SLE)に対して感度99%、特異度60%と報告されている。SLEの検査前確率が30%と想定される。

抗核抗体が陽性の場合にSLEである確率はどれか。

- a 7%
- b 15%
- c 51%
- d 96%
- e 99%

- 15 喫煙と発症の因果関係が強いのはどれか。
- a 胸膜ブランク
 - b サルコイドーシス
 - c 慢性閉塞性肺疾患
 - d 急性呼吸窮迫症候群
 - e ニューモシスチス肺炎
- 16 がん対策基本法において、がん患者への緩和ケアの提供が開始されるべき時期で適切なものはどれか。
- a がんと診断された時
 - b がんの治療を開始する時
 - c がんが再発した時
 - d がんが根治不能となった時
 - e がんによる終末期
- 17 縫合した創部の断面図(別冊No. 1)を別に示す。鑷子(せっし)で縫合糸を挙上している。
- 抜糸を行う際、剪刀(せんとう)で切離すべき場所はどれか。
- a ①
 - b ②
 - c ③
 - d ④
 - e ⑤

別 冊

No. 1

- 18 加齢に伴い増加するのはどれか。
- a 腎容積
 - b 尿濃縮力
 - c 腎血漿流量
 - d 硬化糸球体数
 - e 糸球体濾過量〈GFR〉
- 19 身体診察で、心尖部に全収縮期にわたる高調な雑音が聴取されたときに最も考えられる疾患はどれか。
- a 心室中隔欠損症
 - b 大動脈弁狭窄症
 - c 肺動脈弁狭窄症
 - d 三尖弁閉鎖不全症
 - e 僧帽弁閉鎖不全症
- 20 血圧高値を主訴とする患者の初診時の問診項目で優先度が低いのはどれか。
- a 飲酒歴
 - b 渡航歴
 - c 運動習慣
 - d 睡眠中のいびき
 - e 高血圧の家族歴

- 21 外科的気道確保を考慮すべきなのはどれか。
- a 上咽頭癌
 - b 声帯結節
 - c 気管支喘息
 - d 急性喉頭蓋炎
 - e 一側性反回神経麻痺
- 22 薬剤による便秘をきたすのはどれか。
- a 抗菌薬
 - b NSAID
 - c オピオイド
 - d プロトンポンプ阻害薬
 - e プロスタグランディン関連薬
- 23 院内感染サーベイランスの目的で誤っているのはどれか。
- a 発生原因の特定
 - b 発生状況の監視
 - c 再発防止策の策定
 - d 発症患者の転院促進
 - e 感染拡大リスクの評価

- 24 医学研究の倫理で正しいのはどれか。
- a 研究の資金源は秘匿する。
 - b 侵襲を伴わない研究の倫理審査は不要である。
 - c 13歳未満の子どもには研究の目的を伝えない。
 - d 研究目的の重要性は対象者のリスクより優先される。
 - e 対象者は理由を説明することなく研究参加の同意を撤回できる。
- 25 早産のリスクのある胎児の肺成熟を期待し、母体にグルココルチコイドを投与するのは、妊娠何週までか。
- a 24
 - b 27
 - c 30
 - d 33
 - e 36

26 40歳の女性。突然の胸痛と呼吸困難を主訴に救急車で搬入された。意識レベルはJCSⅡ-10。身長168 cm、体重60 kg。体温36.9℃。心拍数120/分、整。血圧80/60 mmHg。呼吸数30/分。SpO₂ 91% (リザーバー付マスク10 L/分 酸素投与下)。毛細血管再充満時間3秒。皮膚はチアノーゼを認める。眼瞼結膜に貧血を認めない。頸静脈の怒張を認める。呼吸音は左前胸部で消失し、打診で左胸部に鼓音を認める。胸部エックス線写真(別冊No. 2)を別に示す。

まず行うのはどれか。

- a 胸腔ドレナージ
- b 昇圧薬投与
- c 赤血球輸血
- d 用手的陽圧換気
- e β 刺激薬投与

別 冊

No. 2

27 研修医と指導医との会話を以下に示す。

研修医：「昨日の救急当直では、重症の患者さんが搬入されて、そのまま入院になったので大変でした。少し、頑張りすぎました」

指導医：「疲れているようだね。体調は大丈夫かな。最近は医師の働き方も見直されているね」

研修医：「そうなんです。一緒に当直した先生から①『研修医には労働時間の制限がない』と教わったんですが、ほかの先輩は②『働き方改革は医師のためでもある』とも言っていました。別の先生は、③『指導医の指示による学会発表の準備は業務と認められる』って言ってましたし…あと、私自身も④『研修医も働き方改革の対象である』ってずっと思っていました。それに⑤『労働基準法に違反する労働をさせると病院管理者に対して罰則がある』なんて言ってた人もいて、もう何が正しいのか分からなくなってきました」

下線部のうち、研修医の話の内容で誤っているのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

28 6歳の男児。血尿と浮腫を主訴に両親に連れられて来院した。2週間前に咽頭痛があった。3日前から起床時に上眼瞼浮腫が出現し、昨日から肉眼的血尿も伴ったため受診した。身長115 cm、体重24 kg(2週間前から2 kg増加)。体温36.7℃。脈拍100/分、整。血圧120/70 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂99%(room air)。上眼瞼および下腿に浮腫を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。皮疹は認めない。尿所見：蛋白2+、潜血3+。血液所見：赤血球430万、Hb12.4 g/dL、白血球8,700、血小板42万。血液生化学所見：アルブミン4.1 g/dL、尿素窒素23 mg/dL、クレアチニン0.7 mg/dL、Na139 mEq/L、K4.2 mEq/L、Cl108 mEq/L、Ca10.5 mg/dL(基準8.5~11)、P6.0 mg/dL(基準4.5~6.5)、Mg2.1 mg/dL(基準1.7~2.5)。免疫血清学所見：ASO698単位(基準250以下)、C321 mg/dL(基準52~112)、C427 mg/dL(基準16~51)、血清補体価(CH₅₀)15 U/mL未満(基準25~35)、CRP0.4 mg/dL。

最初に制限すべきなのはどれか。

- a リン
- b カリウム
- c カルシウム
- d ナトリウム
- e マグネシウム

29 37歳の女性。8か月前に感染性心内膜炎から脳梗塞をきたし、リハビリテーションを行っているが右不全片麻痺が残存している。言語障害はなく、食事は左手でスプーンを使ってできるが、着替えやトイレ動作には介助が必要であり、通院も家族の付き添いが必要である。38歳の正社員の夫、10歳の長女と3人暮らし。本人は、これまで正社員として勤務していたが、現在は休職中で復職の見込みは立っていない。

この患者が利用できるのはどれか。

- a 介護保険
- b 障害年金
- c 生活保護
- d 労災保険
- e 指定難病医療費助成制度

30 4歳の女児。急性脳症による意識障害のため小児集中治療室(PICU)で人工呼吸管理中である。今朝、SpO₂が突然低下したため、研修医に報告があった。体温37.0℃。心拍数130/分、整。血圧92/50 mmHg。呼吸数30/分(呼吸器設定：換気回数30/分、F_IO₂0.4)。SpO₂81%。胸郭の動きは左右差がある。心音に異常を認めない。呼吸音は左側で著明に減弱している。腹部は平坦、軟で、腸雑音を聴取する。経鼻胃管は昨日と同じ固定位置で、胃液が吸引できる。気管チューブの固定テープにゆるみがあり、固定位置が2 cm 深くなっている。気管チューブから喀痰吸引を行い、チューブの閉塞はみられなかった。胸部エックス線写真(別冊No. 3)を別に示す。

適切な対応はどれか。

- a 胃管を抜去する。
- b ショック体位にする。
- c アドレナリンを静注する。
- d 気管チューブの位置を調整する。
- e 胸腔ドレーンを左側に挿入する。

別 冊 No. 3

31 56歳の女性。大腸癌の末期で在宅療養中である。夫と2人暮らし。訪問診療の開始時に本人および同居している夫と話し合い、心肺蘇生処置をしない方針(DNAR)で合意され診療録に記載してある。徐々に全身状態は悪化し、数日前から食事が低下していた。昨日に意識がもうろうとしたため往診したところ、収縮期血圧が80 mmHg 台に低下し、尿量が減少していた。今朝、呼吸が停止していると夫から連絡があった。1時間後患者を診察し、呼吸停止と瞳孔散大を確認した。夫にDNARの方針は変わっていないことを確認したが、別居の息子から心肺蘇生処置を希望された。

息子への説明で適切なのはどれか。

- a 「救急搬送します」
- b 「胸骨圧迫をはじめます」
- c 「人工呼吸をはじめます」
- d 「お母さんの意思(DNAR)を尊重しましょう」
- e 「電気ショック(電氣的除細動)を試してみます」

32 85歳の女性。右大腿骨頸部骨折のため入院し、人工骨頭置換術を受けた。術後3日目にリハビリテーションが開始された。術後2週間の時点で座位への体位変換にも軽介助が必要で、歩行器で3m歩行が可能な状態である。認知機能には問題なく意思疎通が可能である。むせることはなく食事を摂取できている。担当医は現時点で、退院先を検討するにあたり、リハビリテーションによるADLの改善の見込み及び必要なリハビリテーションの期間について、情報収集が必要と判断した。

担当医が初めに情報を求めるべき職種はどれか。

- a 管理栄養士
- b 言語聴覚士
- c 作業療法士
- d 理学療法士
- e 医療ソーシャルワーカー

33 22歳の男性。意識障害のため救急車で搬入された。炎天下で運動中に頭痛と悪心が出現した。ふらふらして真っ直ぐに歩けなくなり、倒れたところを友人が気づき、救急車を要請した。本人は水分を補給していなかった。既往歴に特記すべきことはない。意識レベルはJCSⅡ-30。心拍数116/分、整。血圧92/62 mmHg。呼吸数24/分。SpO₂96%(マスク5L/分 酸素投与下)。瞳孔径は両側4mmで対光反射は正常である。発汗はなく、体幹部から末梢にかけての皮膚は乾燥し、熱感を認める。

最も適切な体温測定部位はどれか。

- a 前額部
- b 鼓膜
- c 舌下
- d 腋窩
- e 直腸

34 25歳の男性。バイクを運転中に転倒したため救急車で搬入された。病院到着時に心肺停止状態であったが、心拍は再開し、ICUに入院した。入院3日目、意識レベルは①JCSⅢ-300。体温36.2℃。心拍数48/分、整。血圧98/60 mmHg(昇圧薬投与下)。②自発呼吸はない。SpO₂98%(F_IO₂0.5で人工呼吸器装着)。③瞳孔散大・固定。④膝蓋腱反射は消失。頭部単純CTで低酸素脳症の所見を認めた。脳波検査で⑤平坦脳波を認める。患者の運転免許証には臓器提供の意思表示があった。家族から本人の意思を尊重し、臓器提供をしたいと申し出があった。そこで、法的な脳死判定を実施することにした。

下線部のうち、この患者で法的な脳死判定基準に含まれないのはどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤

35 40歳の男性。1か月前からの左頸部リンパ節腫大を主訴に来院した。頸部リンパ節生検の結果、Hodgkinリンパ腫と診断された。患者への病状説明で、薬物による抗癌治療の必要性について説明したところ、「それなら抗癌治療は受けず、友人が勧めるサプリメントの服用のみで治療したいと思います」と話している。

この患者への声かけで、適切なのはどれか。

- a 「サプリメントで治るわけではありません」
- b 「あなたの友人をすぐにここへ呼んでください」
- c 「あなたの希望ですので、サプリメントの服用をお勧めします」
- d 「治療を拒否されるなら、もう当院でできることはありません」
- e 「なぜそう思うのか、もう少し詳しくお聞かせいただけますか」

36 62歳の男性。糖尿病の診療を勧められて来院した。20年前に2型糖尿病と診断されたが、受診は不定期であった。目のかすみを自覚して自宅近くの眼科を受診したところ、増殖糖尿病網膜症と診断された。内科を受診するように勧められて来院した。既往歴に特記すべきことはない。身長168 cm、体重85 kg。BMI 30.1。脈拍80/分、整。血圧162/92 mmHg。胸腹部に異常はない。両下腿に軽度の圧痕性浮腫を認める。尿所見：蛋白2+、糖3+、潜血(−)、随時尿の尿蛋白/Cr比は1.4 g/gCr(基準0.15末満)、沈渣に赤血球1~2/HPF、白血球1~2/HPF、円柱はない。血液生化学所見：総蛋白6.3 g/dL、アルブミン4.2 g/dL、尿素窒素18 mg/dL、クレアチニン1.4 mg/dL、eGFR 41.1 mL/分/1.73 m²、随時血糖268 mg/dL、HbA1c 8.5%(基準4.9~6.0)、Na 144 mEq/L、K 4.2 mEq/L、Cl 100 mEq/L。

腎障害の原因が糖尿病腎症であると推測するために最も有用なのはどれか。

- a BMI 高値
- b 尿蛋白陽性
- c 圧痕性下腿浮腫
- d 血清クレアチニン高値
- e 増殖糖尿病網膜症の診断

37 A 64-year-old man. He visited the family physician for an abnormal finding in the annual health check-up. He quit smoking three years ago. He does not have any history of stroke, coronary heart disease, or peripheral artery disease. He is currently not on any medication.

His body measurements are as follows : height 170 cm, weight 65 kg, waist circumference 81 cm, blood pressure 128/74 mmHg.

His fasting blood test results are as follows : LDL cholesterol 183 mg/dL, HDL cholesterol 58 mg/dL, triglycerides 130 mg/dL, glucose 102 mg/dL, HbA1c 5.5 % (reference range 4.9-6.0) , creatinine 0.76 mg/dL.

Which of the following best describes the man's condition?

- a Obesity
- b Dyslipidemia
- c Hypertension
- d Diabetes mellitus
- e Metabolic syndrome

38 28歳の初妊婦(1妊0産)。妊娠40週3日の午前5時、10分間隔の規則的な有痛性の子宮収縮を自覚し、次第に増強したため午前7時に来院した。これまでの妊娠経過に異常を認めない。陰鏡診で少量の血性粘液を認めた。BTB紙は青変しなかった。入院管理とし経過を観察した。分娩経過に関するパルトグラム(別冊No. 4)を別に示す。胎児心拍数陣痛図で、胎児心拍数基線は150 bpm、基線細変動は中等度、一過性頻脈を認め、一過性徐脈を認めなかった。

午後5時の時点で適切な対応はどれか。

- a 吸引分娩
- b 経過観察
- c 人工破膜
- d 緊急帝王切開
- e 子宮収縮薬投与

別 冊

No. 4

39 78歳の女性。感染性心内膜炎の治療のため入院中である。血液培養2セットからGram陽性球菌が検出され、広域抗菌薬を1日3回(8時間ごと)点滴静注していた。入院5日目に薬剤感受性試験でペニシリン系抗菌薬に感受性があることが判明したため、指導医は、抗菌薬をペニシリン系抗菌薬に変更するよう病棟担当医に指示した。しかし、病棟担当医が抗菌薬変更のオーダー入力を失念し、かつ、広域抗菌薬のオーダーが入院6日目の朝までとなっていたため、入院6日目の夜勤の看護師が気付くまでの約12時間、抗菌薬投与が行われなかった。患者は、意識は清明で、全身状態に変化はなく、その後、速やかにペニシリン系抗菌薬の投与が開始された。

指導医から病棟担当医への言葉として適切なものはどれか。

- a 「医療安全管理部門に報告しましょう」
- b 「院外の医療事故調査委員会に報告しましょう」
- c 「患者への影響はなかったので患者への説明は控えましょう」
- d 「速やかに対応したので診療録に記載する必要はありません」
- e 「あなたの問題なので私はインシデントレポートを書けません」

40 55歳の男性。左下腿切断術後で入院中である。2か月前の休日に交通事故に遭い、左膝下10cmの部位で切断した。現在、医療保険によって製作した義足を装着してリハビリテーションを行っており、1週間後に退院予定である。職業は広告会社の管理職であり、1か月後に職場復帰を目指している。

退院に向け、患者に勧めるべきなのはどれか。

- a 失業等給付の申請
- b 要介護認定の申請
- c 身体障害者手帳の申請
- d 成年後見制度の利用手続
- e 労働災害休業給付の申請

次の文を読み、41、42の問いに答えよ。

75歳の男性。尿量の減少を主訴に来院した。

現病歴 : 約1年前から排尿困難感を自覚していたが医療機関を受診しなかった。
2日前から感冒様症状があり、自宅近くの診療所から総合感冒薬とアセトアミノフェンが処方され内服していた。昨夜、飲酒をした後から排尿困難感が悪化し、尿が間欠的に少量しか出なくなった。下腹部の膨満感も強くなったため、救急外来を受診した。

既往歴 : 高血圧症、糖尿病。

生活歴 : 喫煙は70歳まで10本/日を50年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識は清明。身長175 cm、体重77 kg。体温36.4℃。脈拍64/分、整。血圧140/92 mmHg。呼吸数20/分。SpO₂97%(room air)。努力呼吸を認めない。皮膚、口腔内の乾燥を認めない。腹部は下腹部が膨隆しており、やや硬い。軽度の圧痛がある。腸雑音に異常を認めない。直腸指診で径5 cm、弾性硬の前立腺を触知し、圧痛を認めない。

検査所見 : 尿所見：蛋白(一)、糖1+、潜血(一)、沈渣に異常を認めない。血液所見：赤血球489万、Hb15.0 g/dL、Ht44%、白血球5,200、血小板17万。血液生化学所見：総蛋白7.7 g/dL、アルブミン4.8 g/dL、総ビリルビン0.8 mg/dL、AST26 U/L、ALT15 U/L、LD200 U/L(基準124~222)、ALP67 U/L(基準38~113)、 γ -GT40 U/L(基準13~64)、アミラーゼ108 U/L(基準44~132)、CK180 U/L(基準59~248)、尿素窒素14 mg/dL、クレアチニン0.9 mg/dL、尿酸6.6 mg/dL、血糖130 mg/dL、HbA1c6.5%(基準4.9~6.0)、Na138 mEq/L、K4.1 mEq/L、Cl100 mEq/L。CRP0.1 mg/dL。腹部超音波像(別冊No. 5)を別に示す。

別 冊

No. 5

41 最も考えられる病態はどれか。

- a 脱 水
- b 尿 閉
- c 心不全
- d 腸閉塞
- e 急性腎障害

42 適切な対応はどれか。

- a 絶飲食
- b 血液透析
- c β 遮断薬投与
- d フロセミド投与
- e 尿道カテーテル留置

次の文を読み、43、44の問いに答えよ。

78歳の男性。呼吸困難を主訴に救急車で搬入された。

現病歴 : 昨日まで特に問題なく過ごしていた。深夜から急に喘鳴を伴う呼吸困難が出現したため救急車を要請した。

既往歴 : 40歳時から高血圧症、2型糖尿病に対して内服治療を受けている。

生活歴 : 喫煙は20歳から50歳まで20本/日、以後は禁煙している。飲酒歴はない。

現症 : 意識は清明。顔貌は苦悶様。身長165 cm、体重72 kg。体温36.5℃。心拍数128/分、整。血圧220/112 mmHg。呼吸数32/分。SpO₂95%(マスク5 L/分酸素投与下)。眼瞼結膜と眼球結膜とに異常を認めない。頸静脈の怒張を認める。心音は奔馬調律。両肺野に wheezes を認める。四肢は冷たく、浮腫は認めない。

43 この患者の身体診察で、苦痛に配慮した適切な体位はどれか。

- a 座位
- b 仰臥位
- c 右側臥位
- d 左側臥位
- e Trendelenburg 位

44 酸素投与と血管拡張薬の投与により患者の状態は安定した。尿量測定のために尿道カテーテルを留置した。尿道カテーテルはスムーズに挿入できた。留置 30 分後に尿道カテーテルの蓄尿バッグを確認したところ、尿が淡血性だった。痛みの訴えはなく、カテーテルからの尿の流出は良好だった。抗血栓薬は内服していない。脈拍 96/分、整。血圧 146/92 mmHg。

淡血性尿に関する適切な対応はどれか。

- a 膀胱洗浄
- b 抗菌薬投与
- c 赤血球輸血
- d 尿色調の経過観察
- e 尿道カテーテル抜去

次の文を読み、45、46の問いに答えよ。

82歳の女性。腰痛を主訴に救急外来を受診した。

現病歴 : 2年前から腰痛はあったが、生活に支障はなかった。昨日スーパーから買ってきたものを冷蔵庫に詰めるため前屈みになった際に腰痛が増悪した。夜間睡眠中には腰痛はなかった。今朝、起床時にベッドから起き上がる際は腰痛のため時間がかかり、洗顔も困難であった。腰痛による体動困難のため、家族が付き添って救急外来を受診した。

既往歴 : 48歳時に胃癌で胃切除。71歳時から高血圧で自宅近くの診療所に通院中である。6か月前から膝痛のため鎮痛薬を処方され頓用で使用している。グルココルチコイドの使用歴はない。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 母が大腿骨近位部骨折で手術歴がある。

現症 : 車椅子に乗って診察室に入室。意識は清明。身長158cm(20歳代から身長低下4cm)、体重52kg(直近6か月で体重に変化はない)。体温36.7℃。脈拍76/分、整。血圧は上肢106/80mmHg、下肢114/84mmHg。呼吸数18/分。SpO₂98%(room air)。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。排尿障害はなく、肉眼的な血尿は認めないとのことだった。背部正中の胸腰椎移行部に叩打痛を認める。四肢の筋力は保たれており、腱反射に異常を認めない。

45 最も考えられる疾患はどれか。

- a 睥 癌
- b 腎盂腎炎
- c 尿管結石
- d 脊椎圧迫骨折
- e 腹部大動脈瘤破裂

46 まず行うべき検査はどれか。

- a 尿検査
- b 骨密度検査
- c 腹部単純 MRI
- d 腹部超音波検査
- e 脊椎エックス線撮影

次の文を読み、47、48の問いに答えよ。

74歳の男性。嘔吐、腹痛および下痢を主訴に来院した。

現病歴 : 2日前に生牡蠣<カキ>を摂取後、昨夜から上記症状を認め、食欲低下、頻回の嘔吐および水様下痢が継続している。

既往歴 : 25歳時に急性虫垂炎で手術。

生活歴 : 喫煙歴はない。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 特記すべきことはない。

現症 : 意識レベルはJCSⅡ-10。身長168 cm、体重52 kg。体温37.8℃。脈拍132/分、整。血圧82/76 mmHg。呼吸数30/分。SpO₂95%(room air)。毛細血管再充満時間3秒。皮膚は乾燥しており、ツルゴールは低下している。口腔内は乾燥している。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部はやや膨満しており、軽度の圧痛があるが、反跳痛はない。

検査所見 : 血液所見：赤血球520万、Hb14.8 g/dL、Ht48%、白血球18,200、血小板21万。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dL、アルブミン3.0 g/dL、総ビリルビン1.2 mg/dL、AST20 U/L、ALT30 U/L、LD140 U/L(基準124~222)、ALP80 U/L(基準38~113)、 γ -GT240 U/L(基準13~64)、尿素窒素38 mg/dL、クレアチニン1.6 mg/dL、Na145 mEq/L、K4.8 mEq/L、Cl101 mEq/L。CRP2.8 mg/dL。便中ノロウイルス抗原陽性。

47 まず投与すべきなのはどれか。

- a 解熱薬
- b 止痢薬
- c 昇圧薬
- d 細胞外液
- e 抗ウイルス薬

48 個室に入院のうえ治療を継続することとした。

この患者に関する院内感染対策で正しいのはどれか。

- a 共用トイレの使用を許可する。
- b 病室のドアノブは頻回に消毒する。
- c 診察時には N 95 マスクの着用を要する。
- d 患者が使用した食器はアルコールで消毒する。
- e 吐物の処理時に使用した手袋は一般廃棄物として処理する。

次の文を読み、49、50の問いに答えよ。

75歳の女性。血便を主訴に来院した。

現病歴 : 3日前から急に左下腹部痛が出現し、排便時に鮮紅色の血液が混じるようになった。便の性状は、初めは軟便であったが、次第に泥状便に変化した。下腹部痛は波があり、排便後に軽減するが、再び増悪することがある。発熱はないが、最近食欲が低下し、軽度の体重減少も認める。排便後に便意が残る感覚がある。また、以前から排便後、肛門を拭いたトイレットペーパーに血液が付着することがあった。

既往歴 : 高血圧症で降圧薬を内服中。糖尿病で経口血糖降下薬を服用中。

生活歴 : 喫煙10本/日を50年間。飲酒は機会飲酒。

家族歴 : 父が大腸癌で死亡。

現症 : 身長155 cm、体重48 kg。脈数96/分、整。血圧110/68 mmHg。眼瞼結膜に軽度の貧血を認める。心音と呼吸音とに異常を認めない。腹部は左下腹部に圧痛があり、反跳痛はない。腸雑音は亢進している。四肢に浮腫を認めない。

49 この患者へ直腸指診を行う際の説明で、誤っているのはどれか。

- a 「看護師も同席します」
- b 「痛みを感じた場合には教えてください」
- c 「診察中は脚をまっすぐ伸ばしてください」
- d 「できるだけ自然な呼吸を続けてください」
- e 「診察の際には力を抜いて楽にしてください」

50 肛門と直腸の診察の結果、直腸内に径 2 cm の硬結を指腹で触知し、指診後に血液の付着を認めたため、医師は下部消化管内視鏡検査を提案した。しかし、患者は「大腸カメラなんて、怖くて絶対に受けたくありません」と話している。

このときの医師の応答で、誤っているのはどれか。

- a 「不安なお気持ちはわかります」
- b 「とにかく私の指示に従ってください」
- c 「検査の目的について詳しくご説明しますね」
- d 「どうして怖いと思うのか理由を教えてくださいませんか」
- e 「鎮静薬などを使用して眠っている間に検査を終えることもできます」

